

## 作文指導で「心が明るくなれました！」と書いた中学生

### — マインドマップの手法を取り入れて —

大阪精神医療センター分教室

#### 1 はじめに

1979年にイギリスの児童精神科医ローナ・ウィングは、「ASD（自閉スペクトラム症、アスペルガー症候群・広汎性発達障害など）」を含む自閉症の人が持つ特徴として「ウィングの3つ組」を提唱した。「3つ組の障害」とは、次のとおりである。

- ① 社会性の質の違い：周囲の人とかかわる時に適切にふるまうことができず、相手と関係を築いたり、築いた関係を維持していくことが難しい。
- ② コミュニケーションの質の違い：相手が言っていることや感じていることを理解したり、気づくのが難しい。また自分が言いたいことや感じていることを相手にわかりやすく伝えたり、表現するのが難しい。
- ③ 想像力の質の違い：自分が見たり予想していた以外の出来事や成り行きを想像したり納得することが難しい。自分の興味のあることや心地よいパターンの行動に強いこだわりがあり、想定外の行動を取ることに抵抗を示す。

国語の学習では心情理解が求められる場面が多いため、想像力は必要不可欠なものと考えられる。

本分教室は、中学生に対し、学年別・グループ別で、ひとコマ50分の一斉授業を実施している。学年別の授業では、基本的に地域校の進度に合わせて授業を行っている。在籍する生徒はゲーム依存による不登校や自殺未遂、精神的不安定などで、大阪精神医療センターに入院している。各生徒の状況によって登校時間が異なり、全員が出席していないことも多い。

不登校の期間が長期間に及んでいる生徒や勉強が苦手な生徒が多いため、教科書の題材に入る前に、その題材のあらすじを簡潔にまとめたプリントを配付し、題材への興味関心を持たせるようにした。ひとつの授業で使用教科書が複数あり、地域校の定期テストを受験しない生徒もいるため、定期テストの範囲がわかっている場合はそちらを優先し、教材の言語活動の領域に注意して、同じ題材で授業を行った。

#### 2 マインドマップの手法をとり入れた作文指導

##### (1) 生徒の課題

国語の授業で小説を題材とする場合、登場人物の心情を押さえることが求められる。また短歌や俳句などは短い言葉の中に書かれていない情景を想像することが醍醐味とされているが、発達障がいのある生徒が国語の授業で困難を示すのは、この想像するという点である。

聞き手が「話し手が伝えたいと思っている意味」を理解できるかどうかという語用論的な考えがある。母親から「お風呂見てきて」と言われた時、どのような意図でそう言っているかを質問すると、ほとんどの生徒が正しく答えられ、語用論的課題はない。しかし、短歌の単元で、「この短歌に出てきた観覧車ってどんなもの？」と質問すると、観覧車を知っていても説明できなかつたり、危篤の母親のいるみちのくへ急ぐ短歌を扱った際、「お母さん死んだらかわいそう」と言えるのに、「作者は、どんな気持ち？」と改めて聞くと何も答えられず黙ってしまうケースが多々みられた。短歌は文字数が少なく、行間を読み取っ



## I 実践報告

### ②作文

作文が苦手を書くことを拒否していた生徒が、自分のマインドマップを見て、今までできていなかったことができている自分に気づき、スラスラと作文を書いていた。授業場面では原稿用紙の使い方や漢字の誤りについてはうるさく言わず、一行目は最後に題を書くので開けておくこと、二行目は下から4つほど升目を開けて名前を書くこと、書き出しはひとマスあけ、段落を変えたらひとマス開けること程度のルールを提示した。書かれた作文を授業場面で発表しないことも伝えた。作文は教員で回覧して良いか確認し、先生方にみていただいている。

#### 作文（原文のまま）

私は、2回目の入院、2回目の分教室で明るい自分を見れた気がします。今までの私だったら、いつもイライラしていて、自分の意見を言わず、人とコミュニケーションをとらない自分でした。1回目の入院のときもあまり自分の意見を言えてませんでした。でも、2回目の今はすごく明るく話せている気がします。病棟の看護師さんにも分教室の先生にも色んなネタを言って自分の意見を言ってちゃんと相談できています。ちょっと前までは、人と話すだけですごくゆううつだったのに分教室のワニタイムの時、嫌なドッジボールを小学部と一緒に楽しんでいるぐらいには明るくなりました。心が明るくなれたおかげで、1回目の時より人間関係や、学校の授業がとても楽しく感じる様になりました。

人と話せる様になったり、自分から行動できる様になって、ちょっとずつでも成長しているんだなーと実感しました。家に帰ってもこれが続くかは、わからないけど、ネガティブになった時、今はこういう時季でちょっとずつでも変わっていているから焦らなくて大丈夫と思うようにします。もう入院してこないという保障はないけど、ここで色々学べてよかったです。もう1度入院しなくても大丈夫なぐらい家でがんばれたらいいなと思います。

（以上）

「ドッジボール」と真ん中に据えたマインドマップを短時間で書きあげ、次の時間に400字詰め原稿用紙に清書させた。その時間に書きあがらなかったため、生徒は宿題で書いてくると言い、翌日仕上げてきた作文を提出した。開けておくよう指示していたため表題は空白だったが、「表題は何にする」と聞くと、しばらく考えて「明るい私」と書いた。

### 3 考察とまとめ

マインドマップはひとつの事象からイメージを広げていくので、書き出すものが単語であっても構わない。平均的な言語性があれば、自分の書き出したイメージの単語に「てにをは」を付け文にすることは難しい作業ではない。また上記の例では、嫌々参加したドッジボールの話題で、積極的に参加していないにも関わらず、ドッジボールに参加している事実と、その状況を楽しんでいる自身の成長の発見がみられた。生徒はそれを「自分、神」という表現を取っていた。その時の誇らしげな顔は忘れられない。自己表現の機会に乏しかった生徒から無理やり聞き出そうとするのではなく、自由にイメージをマインドマップで書き出すことで自分自身の置かれている立場を想像し、自分自身を客観的に振り返る機会になっていると思われる。

知的に課題のある生徒はマインドマップ自体が作れない。想定される理由は、知っている言葉も少なく、言葉の属性（りんご：赤い、青森、すっぱい、うさぎの形など）にも広がりがなく、マインドマップが広がらないからであろう。今後の課題として、AAC（代替補助コミュニケーション）の手法を活用した、絵カードやコンディションカード等によるマインドマップの作製についても取り組んでみたい。